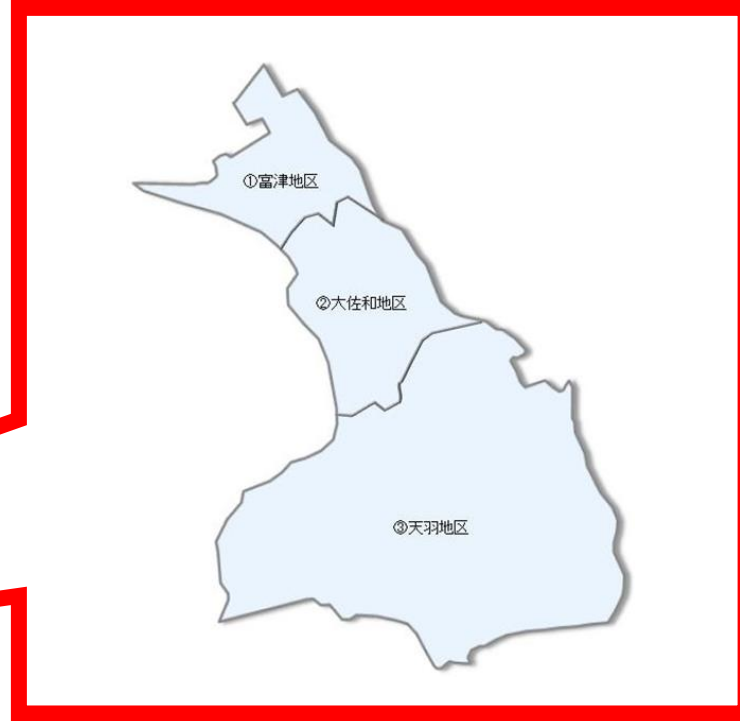


地域包括マッチング事業へ 参加後の実践報告

千葉県富津市



千葉県富津市とは



房総半島の中西部に位置し、東京湾の湾口部を臨む
平成9年アクアライン開通に伴い、首都圏からのアクセス良好
東京湾フェリーで神奈川県横須賀市と接続

左の図は千葉県庁ホームページから

介護保険の現状について

(平成30年12月末現在)

1 第1号被保険者

(単位：人)

人口	第1号被保険者数		
	65歳～74歳	75歳以上	計
44,798	8,035	8,248	16,283

2 要介護（要支援）認定者数

(単位：人)

区分	要支援1	要支援2	小計	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	小計	合計
第1号被保険者	277	393	670	432	567	506	401	292	2,198	2,868
第2号被保険者	7	12	19	11	11	9	10	7	48	67
合計	284	405	689	443	578	515	411	299	2,246	2,935

本日の内容

1 地域包括マッチング事業に参加した経緯

2 現在、力をお借りしている団体

(1) 埼玉県立大学

(2) 社会福祉法人 善光会

(3) エンディングノート

3 マッチング事業を経て考える産官学協働

富津市の地域支援事業の進捗状況

- 地域包括支援センターの運営
- 地域ケア会議推進事業
- 在宅医療・介護連携の推進
- 認知症総合支援事業
- △ 地域の支えあいの体制づくり
(生活支援体制整備事業)

富津市の困りごと

～地域の支えあいの体制づくりについて～

- 地域づくりをするにも
マンパワー(市職員)が足りない
住民が真に困っていることが分からない
事業の委託を試みたが、進まない
- 目指すべき支えあいの地域づくりを実現するための
見通しが立っていない

高齢者が地域で安心していきいきと生活するために...

- 地域における人々の絆やつながりの大切さを、再認識する働きかけをしたい
- 地域住民に無理なく「できそうなこと」から始められる支えあい活動を知って(つくって)ほしい
- 地域の中で生きがいを持って活躍してほしい

つながり方

- 市とともに地域に出て、高齢者の生活する上での困りごとを把握し、課題解決に向けてのコーディネートをしていただきたい
- 住んでいる人が気づかない、都会にはない、富津市の良さを引き出してほしい

本日の内容

- 1 地域包括マッチング事業に参加した経緯
- 2 現在、力をお借りしている団体
 - (1) 埼玉県立大学
 - (2) 社会福祉法人 善光会
 - (3) エンディングノート
- 3 マッチング事業を経て考える産官学協働

(1) 埼玉県立大学

- 平成30年3月、市から埼玉県立大学にオファー
- 同年4月上旬、現課長、係長、前担当課長、係長とで埼玉県立大学を訪問
- 同年4月下旬、第1回支えあいの地域づくり会議を開催★
- 同年5月下旬、第2回支えあいの地域づくり会議を開催★
- 同年8月上旬、埼玉県立大学にて教授と今後の進め方を協議
- 同年10月中旬、第3回支えあいの地域づくり会議を開催
- 平成31年1月下旬、第4回地域の支えあいの地域づくり会議を開催★
★・・・埼玉県立大学教授にご来庁いただく

教授とのかかわり方について

- 地域の支えあいの体制づくりを主に、事業の進め方に関するご助言をいただく
- 会議を主導していただく
- 教授と市との間で覚書を結ぶ
- 介護保険事業計画のアンケート結果や要介護認定者のデータを提供、分析を依頼
- 市の支出は、教授への交通費と会議を主導していただいた際の報償費

埼玉県立大学と協働して良かったこと

- 会議（生活支援体制整備事業）の進め方を主導していただく
- ご相談にも乗っていただける
 - KJ法による課題出し
 - テーマごとに課題を取りまとめ
 - 富津市として目指すまちの姿（理想）と課題を提示
 - インタビューの調査票を作成
 - 会議参加者等にご協力いただき、高齢者へインタビュー調査
 - 取りまとめたインタビューの報告会の開催

埼玉県立大学と協働しての課題

- まだできていないこと(第2層の協議体開催、第2層生活支援コーディネーターの活動)
- 地域の支えあいの体制づくり(生活支援体制整備事業)について、市からの説明が不十分
- 会議を重ねるごとに参加者を拡大
→「なぜ自分たちが参加しなければならないのか」

(2) 社会福祉法人 善光会

- 平成30年3月下旬、関東信越厚生局からご紹介いただき、ご来庁いただく
- 同年8月、善光会主催のサンタフェスタへご招待いただく
- 同年9月、畑の貸借の関係で再び善光会にご来庁いただき、畑の貸借候補地とボランティア活動について協議
- 同年12月14・15日、ボランティア活動に従事していただく

ボランティア活動の概要

- 善光会の職員研修の一貫として、高齢者宅の掃除、片付けや話の傾聴等の活動に従事していただく
- 2日間で、善光会からご参加いただいた職員は25人
- 市で対応した職員は、課長、係長を含め6人
- 対象ケースは、地域包括支援センターと市で選定
ボランティア活動のため訪問11人／候補19人
- 事前準備（パッカー車の手配、活動日時や内容の調整）
- 高齢者と善光会職員との紹介（顔合わせ）
- 市の支出はゼロ

ボランティア活動で良かったこと

- 市や関係機関だけではやりきれない課題を改善していただいた
一人暮らしの65歳男性「やっと人間らしい生活ができます」
一人暮らしの64歳女性「3カ月の入院生活を経て自宅へ帰って来たが、片付けてもらえて助かった」
- 今まで介護保険サービスなど支援の手が行き届かずにいた高齢者宅への、介入のきっかけとなった
セルフ・ネグレクトのケースに介入、ボランティア後の定期訪問による声掛けを経て受診につながった

ボランティア活動に関する課題

- 支援が必要な高齢者と、ボランティア従事者とのバランス
 - ボランティア活動当日のスケジュール調整
 - ボランティアの受け入れ先となる高齢者の拒否
 - 市職員の人的不足
-
- 今後も活動の継続を期待

(3) エンディングノート

- 平成30年4月、株式会社ホープから案内
- 同年6月、2,000部のエンディングノートを納品いただき、市民へ配布
- 市の支出はゼロ
- 広告主は株式会社ホープが募る
- 市はホームページ等で協働事業の周知、校閲、広告を出していただく企業の審査等を実施
- 地域包括支援センター「認知症になる前に作成し、本人の判断能力がなくなった後に本人の意思を確認するために使用している」

本日の内容

- 1 地域包括マッチング事業に参加した経緯
- 2 現在、力をお借りしている団体
 - (1) 埼玉県立大学
 - (2) 社会福祉法人 善光会
 - (3) エンディングノート
- 3 マッチング事業を経て考える産官学協働

産官学協働で良かったこと

- 新たな知見が得られる
- 事業や日常業務の転換の契機になる
- 社会資源が乏しい自治体ほど協働する恩恵を享受

産官学協働の課題

- 自治体の困りごとについて、連絡をいただける団体はあるが、見極めが必要
- 手間がかかることもある
- お金がかかることもある
- 個人情報取扱いが関連する場合

産官学協働の課題を解決するために 市はどうしたらよいか

- 困っていることを明確にする
- 協働先の強みを理解する
- 介護福祉課の事業としてマッチングしなくても、他の部署と情報共有
- 自治体の支出が必要となる場合には、期待できる効果を表す
(できれば数字で)
- 自治体が困っていることすべてを協働する団体がやってくれる訳ではない(行うべきことを具体的に)

地域包括マッチング事業について

- 市の課題を解決してくれると思われる団体の紹介
- 自治体側の情報公開の程度
- 事例の積み重ね
- 自治体と協働する団体の双方にメリットが享受できるように
- 開催時期(次年度の当初予算要求、異動)

ご静聴ありがとうございました

